

金沢大学薬学教育自己点検評価報告書（令和6年度）

部局名：薬学系

部局長：加藤将夫

今年度の目標・取組	今年度の目標・取組の実施状況および課題等	次年度の目標・取組
<p>1. 【学類入試委員会】</p> <p>① 薬学類・高大院接続入試の志願者数増加に向けた検討を行う。</p> <p>② 一般選抜における志願者の動向変化などを調査し、優秀な入学者の確保に取り組む。</p>	<p>① 高大接続委員会と連携し、出張講義などを通じて高大院接続入試の広報を行い、その認知度向上を図った。</p> <p>② 令和6年度入試の一般選抜および高大院接続入試の高校別志願者数を調査した。今後、他の委員会と連携して、広報活動に活用していく。</p>	<p>① 一般選抜試験を実施し、入学定員を厳重に管理して合格者を出す。</p> <p>② 薬学類・高大院接続入試を実施し、入学定員を厳重に管理して合格者を出す。</p> <p>③ 志願者の動向を調査し、他の委員会と連携して、広報活動に活用し、志願者数増加を目指す。</p>
<p>2. 【高大接続委員会】</p> <p>① 対面キャンパスビジットを実施する。</p> <p>② Web キャンパスビジットを実施する。</p> <p>③ 学類パンフレットを作成する。</p> <p>④ 出張講義・学類紹介を行う。</p> <p>⑤ 高校生への進学説明会を行う。</p>	<p>① 例年 40 人の受け入れのところ、盛況に応じて増員し 60 名を受け入れた。</p> <p>② 薬学の様々な分野の魅力を高校生に伝えるべく講師を選定し、実施した。</p> <p>③ 学類及び高大院接続入試に関するパンフレットを刷新し、SSH をはじめとする高校に送付した。</p> <p>④ 現地及びオンライン対応を活発化し、遠方を含め様々な高校で実施した。</p> <p>⑤ 薬剤師会の要請及び学類紹介で本学の入試及び教育システムについて説明した。</p>	<p>① 午前・午後の二部制にて計 120 名の高校生を受け入れる予定である。より多くの高校生に本学類の魅力を伝える。</p> <p>② 前年度同様、実施する。</p> <p>③ 前年度に大幅に改訂したため、必要に応じて適宜調整し作成する。</p> <p>④ 大学の派遣基準に満たない高校からの依頼にも、適宜学類単位で対応する。今年度は JSPS の科学普及プログラムである「ひらめきときめきサイエンス」の採択研究室があり、本学における科学実験の体験を通じて薬学の魅力を発信する。</p>

		⑤ 昨年同様に実施する。
<b>3.【学類教務・学生生活委員会】</b> ① R5 年度に策定した学生が身につけるべき資質・能力の評価法を必要に応じて見直す。 ② 昨年度に引き続き、博士課程進学者増大のための方策を検討する。	① 策定した学生が身につけるべき資質・能力の評価法を運用し、本年度は特に見直すなどの要望はなかった。 ② 博士課程進学者増大をめざし、各学年のガイダンスで博士進学的重要性についての説明を実施、奨学金制度の見直し、博士一貫プログラムの制度変更などを行なった。	① 運用中の学生が身につけるべき資質・能力の評価法について、必要に応じて見直す。 ② 博士課程進学者増大をめざし、ガイダンス等を通じた学生への周知をはじめ、関係委員会と協力し、方策を検討する。
<b>4.【実習委員会】</b> ① 実習日程の組織的・計画的な点検を行う。 ② 実習内容・教材について、学習効果の最大化を目指した情報共有を行う。 ③ 実習環境（設備・備品などを含む）の点検・評価を行い、必要に応じて改善する。	① 専門科目の講義日程、留学日程、OSCE/CBT 日程などとの連携も含め、実習順序・日程を組織的に計画した。 ② 専門科目（講義）との連動を意識した実習内容・教材となるよう情報共有を行った。 ③ 実習環境の点検・評価により、老朽化した実習設備・備品を確認し、必要性和予算に応じて更新を行った。	① 実習日程の組織的・計画的な点検を行う。 ② 実習内容・教材について、学習効果の最大化を目指した情報共有を行う。 ③ 実習環境（設備・備品などを含む）の点検・評価を行い、必要に応じて改善する。
<b>5.【教育方法改善委員会】</b> ① 教育研究活動の向上を図るための組織的な取り組みを行う。	① 薬学 FD 研修会を実施した。今年度は「Using ChatGPT and AI to Accelerate and Transform your Learning and Research」と題して、ChatGPTをはじめとする AI 技術の薬学教育、研究への	① 教育研究活動の向上を図るための組織的な取り組みを行う。

<p>② 新任教員を対象とした新任教員 教務関連研修会を実施する。</p>	<p>活用事例について講演を行った。教員の能力及び資質を向上させるためにも毎年、継続的に FD 研修会を実施することが課題である。最先端の医療実務を教授するため、医療薬学関連の講演会や学術集会へ積極的に参加し、その結果として日本薬剤師研修センター認定薬剤師、日本医療薬学会認定薬剤師認定薬剤師の資格を継続して維持している。</p> <p>② 教務全般の説明（カリキュラム、履修、成績判定、アカンサスポータルの運用、授業アンケート、アドバイザー制度等について）を実施した。教育研究の質の向上と教務内容全般の確認作業を毎年実施することが課題である。</p>	<p>② 新任教員を対象とした新任教員 教務関連研修会を実施する。</p>
<p>6. 【点検評価委員会】</p> <p>① 薬学教育にかかる自己点検・評価を引き続き組織的・計画的に行う。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③ 教学 IR を実施する。</p>	<p>① 各委員会からの自己点検評価報告書を取りまとめ、薬学系ウェブサイトにて公表した。また、自己点検・評価書を作成し、薬学教育評価機構へ提出した。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施する。アンケート対象外となっていた授業科目についてアンケートを次年度以降から実施することが課題である。</p> <p>③ 前年度末までの成績データを集計した教学</p>	<p>① 薬学教育にかかる自己点検・評価を引き続き組織的・計画的に行う。</p> <p>② 授業評価アンケートを実施する。</p> <p>③ ルーブリックの改訂について検討する。</p>

<p>④ 卒業生フォローアップ調査を行うための準備を進める。</p> <p>⑤ 薬学教育評価機構による評価受審の対応を行う。</p>	<p>IRを実施した。引き続きデータを蓄積し、必要に応じて教育課程及びその内容、方法の改善・向上を図ることが課題である。</p> <p>④ 卒業生フォローアップ調査を行うための準備を引き続き進めることが課題である。</p> <p>⑤ 薬学教育評価機構による評価受審の対応を行った。改善すべき事項に対応することが課題である。</p>	<p>④ 卒業生フォローアップ調査を行うための準備を進める。</p> <p>⑤ 改善すべき事項への対応を進める。</p>
<p>7. 【キャリア形成委員会】</p> <p>① キャリア形成セミナーについて必要に応じて開催する。学類の授業科目でキャリア形成に関する内容が充実しているため、キャリア形成セミナーの内容を見直し、開催数を減らす検討をする。</p> <p>② 薬学系企業等説明会について、開催時期や開催の必要性を含めて検討する。</p> <p>③ 全教員・学類生・大学院生を対象とした薬学系の交流会を開催する。</p>	<p>① キャリア形成セミナー「職務適正検査」をオンライン開催した。一方、対面開催のセミナーは開催しないことにした。</p> <p>② 薬学系企業等説明会は開催中止とした。</p> <p>③ 全教員・学類生・大学院生を対象とした薬学系の交流会として「キャリア形成サロン」を開催した。</p> <p>上記①&amp;②の対応により効率化が達成できたと考える。一方、学生への就職情報の提供手段については検討の余地がある。</p>	<p>① キャリア形成セミナー「職務適正検査」のオンライン開催を継続する。</p> <p>② 学類生・大学院生を対象とした薬学系の交流会として「キャリア形成サロン」の内容を見直した上で開催する。</p>
<p>8. 【国家試験対策委員会】</p> <p>① 薬学類6年生が薬剤師国家試験に合格するためのガイダンスや講習を企画する。</p>	<p>① 薬剤師国家試験対策講習及び模試を企画し、学生の試験対策を行った。学年により</p>	<p>① 薬剤師国家試験対策講習及び模試を企画し、学生の試験対策を行う。</p>

<p>② 薬学類6年生の薬剤師国家試験の結果を収集し、まとめる。</p>	<p>成績分布が異なるため、それに応じたガイダンスや講習の実施が課題である。</p> <p>② 薬剤師国家試験の合格発表率を過去の結果とともにまとめ、各種委員会と共有した。また国家試験の自己採点結果をもとに、正答率が悪かった項目を大学教員による講義へフィードバックすることが課題である。</p>	<p>② 薬剤師国家試験の合格率を取りまとめ、学内の各種委員会と共有する。</p>
<p>9. 【CBT委員会】</p> <p>① 薬学教育プログラムの共用試験（CBT体験受験・本試験）を実施する。</p> <p>② R6年度金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領，R6年度薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成する。</p> <p>③ CBT 実施のためのネットワーク環境，コンピュータ端末，中継サーバの保守を行う。</p>	<p>① 薬学教育プログラムの共用試験（CBT体験受験・本試験・追再試験）を実施した。</p> <p>② R6年度金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領，R6年度薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成した。</p> <p>③ CBT 実施のためのネットワーク環境，コンピュータ端末，中継サーバの保守を行った。</p>	<p>① 薬学教育プログラムの共用試験（CBT体験受験・本試験・追再試験）の実施人員体制を整備する。</p> <p>② R7年度金沢大学薬学共用試験 CBT 監督要領，R7年度薬学共用試験 CBT 体験受験・本試験受験生用マニュアルを作成する。</p> <p>③ CBT 実施のためのネットワーク環境，コンピュータ端末，中継サーバの保守を行う。</p>
<p>10. 【OSCE委員会】</p> <p>① 本年度より受験者数65名となるため，受験者数増の伴う種々変更に対応したOSCEを計画・実施する。</p>	<p>① 受験者数65名に対するOSCEの実施体制を構築し，大きなトラブルなく実施できた。しかし，受験者増に伴い受験者の待機場所を増やす必要があり，暖房設備の無い場所（プロムナード等）も使用す</p>	<p>① 電力使用量の上限を確認して、試験実施に支障が無い暖房器具・設備を使用し、受験者が課題に集中できる環境を整える。</p>

<p>② 適正に OSCE が実施できるよう誘導者から受験者への指示内容を検討する。</p>	<p>ることになった。</p> <p>② 誘導者を ST 付きにすることで指示は当該 ST の内容のみとなり、受験者への指示は適正かつ確実に実施できた。次年度は必要項目を網羅したチェックリストを作成し、より確実に実施できるようにする。</p>	<p>② 必要項目を網羅した受験者チェックリストを作成する。</p> <p>③ トラブルがあった場合でも当該課題を実施できる体制構築が必要との提案があり、トラブル時にも極力、課題時間を確保できる体制を構築する。</p>
<p>11-1. 【医療薬学実務委員会】</p> <p>① 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習体制の実施と検証を行う。</p> <p>② 新カリキュラムに準拠した学内医療系実務実習、演習の評価方法の改善を実施する。</p> <p>③ 服薬指導支援・フォローアップシステムの充実を図る。</p>	<p>① 現行の事前学習の演習・実習科目で実施している内容が、対応する新カリキュラムの学修事項を網羅していることが確認できた。</p> <p>② 学生は、4年次の事前学習で使用する概略評価表の冊子を用いて1年を通して形成的評価を行った（自己評価）。教員は、担当する実習・演習について、レポート課題や実習への取り組む姿勢より、学生の理解度と積極性を評価した。</p> <p>③ 学生が体験できる服薬指導回数が増やせるよう、教員・TA・SP数と学生のグループ構成人数を見直した。</p>	<p>① 学生の習得度・理解度が向上するよう内容を見直す。</p> <p>② 学生による自己評価の時期・回数が見直しを適切かを見直す。</p>
<p>11-2 【実務実習委員会】</p> <p>① 実務実習事前学習から実習へのスムーズな移行を充実させる。</p>	<p>① 医療薬学実務委員会と連携し、事前学習での課題等を共有し、ガイダンス内容に調整を加えた。</p>	<p>① 実務実習事前学習から実務実習への情報共有体制を構築する。</p>

<p>② R6 年度実務実習の実施と検証を行う。</p> <p>③ R7 年度開始の新カリキュラムに準拠した実務実習体制の周知と準備，調整を実施する。</p>	<p>② 学生全員が実務実習を終了した。今後，アンケートを実施して，課題を抽出する。</p> <p>③ 薬学実践実習（案）に関する情報を収集し，実施内容の検討を開始した。</p>	<p>② R7 年度の実務実習の円滑な実施と問題発生時に関係者・関係団体と連携し，適切な対応を実施する。</p> <p>③ 引き続き，R7 年度開始の新カリキュラムに準拠した実務実習体制の準備，整備に取り組む。</p>
<p>12. 【教育・研究環境管理委員会】</p> <p>① 教育，研究活動に係る環境管理に関し基本的事項を確認し，環境負荷の低減に貢献する。安全性，利便性および衛生面も考慮し，効果的な環境整備に努める。</p> <p>② 薬学系各研究室を定期的に巡視し，研究環境の安全項目をチェックして必要に応じて改善を促す。危機管理マニュアルを見直し，改訂する。</p>	<p>① 基本的事項として，災害時の避難経路の確保，地震対策として薬品棚，ガズボンベ等の固定，有機溶媒の廃棄確認等々のチェック項目を点検・確認した。安全性，利便性および衛生面も考慮し，効果的な環境整備に努めることが課題である。各薬学系研究室を年2回巡視し，上記基本項目をチェックして改善を促した。1ヶ月後にその改善が実施されたことを確かめた。記録として巡視時と改善後の実態を写真撮影して記録に残した。年2回の巡視を継続的に実施することを目標にしている。これにより軽微な改善で対応出来ている。</p> <p>② 危機管理マニュアルの改善，改訂を行うことが課題である。</p>	<p>① 教育，研究活動に係る環境管理に関し基本的事項を確認し，環境負荷の低減に貢献する。安全性，利便性および衛生面も考慮し，効果的な環境整備に努める。</p> <p>② 薬学系各研究室を定期的に巡視し，研究環境の安全項目をチェックして必要に応じて改善を促す。危機管理マニュアルを見直し，改訂する。</p>

<p>13. 【学術情報 Web 委員会】</p> <p>① 薬学系 Web サイトでの情報公開として、必要な内容の確認と掲載を行う。</p> <p>② 薬学系および博士一貫プログラムのさらなる情報配信のため、薬学系 Web サイトを継続して改善する。</p> <p>③ 薬学系 Web サイトの英語版の作成を進める。</p>	<p>①② これまでの薬学系 Web サイトの内容を精査・取捨選択し、知りたい情報により素早くアクセスでき、かつ、博士一貫プログラムや入試の情報を受験生に、よりアピールできるようにリニューアルした。リニューアルした Web サイトが志願者増等にどのように貢献したかの解析が必要である。</p> <p>③ 日本語ページを全てではなく、重要な箇所を選択し英語版を作製した。</p>	<p>① 入学者へのアンケート等を通して、リニューアルした薬学系 Web サイトの志願（博士一貫プログラム含む）への影響を解析し、さらなる改善点を探索する。</p> <p>② 研究を重視している学類であることをよりアピールできるよう、研究トピックの掲載数を増加させる。</p>
---	--	--